

ことばいんごしょうならびにこしべのぜんにしょうそく 後鳥羽院御抄并越部禪尼消息

鎌倉時代末期から南北朝時代の歌壇の第一人者である頼阿(1289-1372)が、「御鳥羽院御抄」と「越部禪尼消息」を書き写させて合本にし、巻末に自筆の奥書をつけたものです。「後鳥羽院御抄」とは後鳥羽院が和歌作法や当時の歌人批評を記したもので、「越部禪尼消息」は藤原俊成の養女である越部禪尼が藤原為家にあてた歴代勅撰和歌集の論評で、ともに鎌倉時代の代表的な歌学書です。本書は最古の写本として中世文学史上重要な資料とされています。



「後鳥羽院御抄并越部禪尼消息」観応2(1351)年写 1帖

かいぼうぞんしんず 解剖存真図2巻

淀藩の藩医を勤めた南小柵寧一(1785?-1825)が制作した彩色の人体解剖図集です。寧一はオランダ医学を学び、「重訂解体新書」の附図制作なども担当しました。この解剖図は40体以上の解剖に参加して一屍ごとに一臓器を観察した実見の成果と西洋解剖学からの知識に基づく実証的な解剖図で、19世紀前半に日本人によって描かれた最高の解剖図と言われています。序や跋には当時の著名な蘭学者が賞賛を寄せ、この図を見たシーボルトも賛辞を書き込んでいます。



南小柵寧一「解剖存真図」文政2(1819)年 自筆 2軸

対馬宗家文書

江戸時代、朝鮮国との外交・貿易を独占的に担った対馬宗家において作成された古文書・古記録約1500点です。宗家の江戸藩邸において作成・保存されたもので、朝鮮通信使来聘の計画段階から帰国までの様子を詳しく伝える朝鮮通信使記録が最もよくまとまっており、その他「朝鮮往復書」「毎日記」等の記録類が含まれています。江戸時代の外交を知る上で価値が高く、このうち895点が「対馬宗家関係資料」として重要文化財に指定されています。

大かうさまくんきのうち

「太閤様軍記の中」と題するこの資料は、信長・秀吉に仕えた太田和泉守牛一(1527-1613)がその著作「太閤軍記」から一部を抜粋して書写した原裝の著者自筆本です。慶長15(1610)年前後の成立と推測され、数多い太閤軍記の中の現存最古本となっています。著者の見聞をもとに秀吉の功業を記しており、近世の歴史・文学史上とても貴重です。



太田牛一
「大かうさまくんきのうち」
慶長年間 自筆 1帖

相良家文書

肥後入吉藩主相良家に伝来した鎌倉時代以来の古文書・古記録約1400点です。相良家は約700年にわたって肥後国球磨郡一帯を領した武家です。鎌倉時代初頭に入吉荘の地頭職に補されて当地に遷り、南北朝期の一族対立や戦国期の勢力伸縮を経て江戸時代には入吉2万2000石の大名となり、明治維新を迎えました。同じ地にこれほど長く家が続くことは日本史上珍しく、本文書はその歴史を具体的に伝えるものです。特に日本中世史研究上の価値が高い史料です。



相良氏法度 天文18(1549)年



朝鮮通信使記録 江戸時代

KEIO UNIVERSITY LIBRARY RARE BOOKS COLLECTION

慶應義塾図書館の貴重書室では、国指定の重要文化財5件(約2300点)をはじめ、善本類1万余点を保管しています。近世から近代への変換期に発足した慶應義塾は、当初から優れた西洋の知識を積極的に取り入れてきました。図書館においても早くから洋書の古典収集を進める傍ら、塾員(卒業生)の寄贈や基金により和漢書の善本の充実にも力を注ぎました。こうして創立者福澤諭吉の時代から途絶えることなく育んできた貴重書コレクションは、慶應義塾の研究領域の広さを反映して、洋書と和書、国書と漢籍のバランスがよいものとなっています。選定基準については、昭和26(1951)年に設けられた「貴重書取扱内規」により、国書は江戸時代初期以前、漢籍は宋元版以前と定められ、洋書は18世紀以前と定められました。その後1980年代に入って洋書については、17世紀以前の各古写本・古刊本を収集範囲とするの見直されています。書籍以外に、古文書・浮世絵、著名人の手稿や書簡なども多数所蔵し、コレクションは年々充実しています。慶應義塾図書館では、コレクションを保管するだけでなく、館内、学外で実施する展示や図書館ホームページで広く公開し、文化の継承に努めています。



KEIO UNIVERSITY LIBRARY

RARE BOOKS COLLECTION

慶應義塾図書館貴重書コレクション

グーテンベルク42行聖書

活版印刷術の発明者、ドイツ・マイツの金細工職人ヨハン・グーテンベルク(Johann Gutenberg 1397?-1468)が印刷した世界初の聖書です。ほとんどのページが42行の行組みであることから「42行聖書」とも呼ばれています。当時180部前後印刷されたと推測されていますが、現存するものは世界に48部しかありません。慶應義塾図書館は紙に印刷された上巻1冊を所蔵しており、アジアで唯一の所蔵館として知られています。慶應本だけにある特徴として、革で編んだインデックス用ボタンがあります。この聖書には目次がないため、ボタンをつけて冒頭ページを探しやすくしていました。現在は4個しか残っていませんが、元は30個ほどあったといわれています。



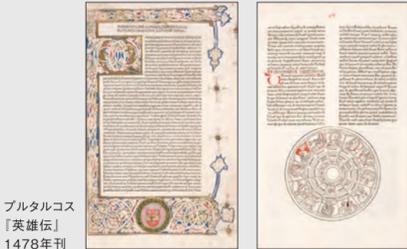
巻頭 サムエル記上 ユディト記



グーテンベルク42行聖書
マイツ 1455年頃刊 1冊

インキュナブラコレクション

インキュナブラ(incunabula)は、1500年末までにヨーロッパで刊行された活版印刷物の総称です。語源はラテン語で「ゆりかご」を示す「cunabula」から派生して「出生地」「初め」を意味します。インキュナブラは中世や近世の草稿本と同じく現存数が少ないことから、貴重な資料として扱われています。慶應義塾図書館での本格的収集は比較的最近ですが、日本国内では有数の所蔵数となる44点を所蔵しています。コレクションの中には、ブルタルコス「英雄伝」やイシドール「語源論」、「トイ歴史集成」、「イングランド年代記」などがあります。



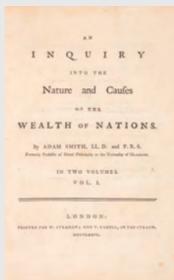
ブルタルコス
「英雄伝」
1478年刊

イシドール
「語源論」
1473年頃刊

西洋経済学コレクション

明治以来収集してきた100点を超えるアダム・スミス「国富論」のコレクションや、慶應義塾の経済学者であり図書館長として、積極的に西洋経済古典書の収集にもあたった高橋誠一郎氏の旧蔵書約2300冊を含む質、量ともに充実したコレクションです。長年にわたって蓄積された蔵書のなかには、ロック「統治二論」初版、ヒューム「人間本性論」初版などその内容、版次などの点から、日本のみならず世界的にも価値の高い資料が多数あります。

アダム・スミス「国富論」初版 1776年刊



ロック「統治二論」
初版 1690年刊

博物誌・百科全書コレクション

博物誌とは古代ローマ時代のプリニウスに始まり、17世紀末から18世紀初頭にかけて自然界の事物・現象を総合的、系統的に記述しようとした博物学の視点から制作された書物のことで、数多くの図版集が刊行されました。博物学の自然科学的方法論はデイドロをはじめとするヨーロッパ啓蒙思想にも影響を与えました。このコレクションは、本学の卒業生の荒俣宏氏から譲られた博物誌資料223点750冊をはじめ、世界的にも最も優れた版として知られる「百科全書」バリ初版や17-18世紀ヨーロッパの辞典や百科事典等から成っています。主なものにゲスナー『動物誌』ドイツ語訳、ヨンストン『禽獣譜』、ビュフォン『博物誌』などがあります。



ゲスナー
「動物誌」
ドイツ語訳
1606年刊

奈良絵本コレクション

奈良絵本は室町時代末期から江戸時代前期にかけて作られた絵入の写本で、挿絵に朱、緑など鮮やかな色彩と金銀箔・泥がほどこされています。内容は御伽草子が中心です。形態は大形本・中形縦本・横本の3種のほか、上層階級向けに贅沢につくられた絵巻や大形縦本などの特製本もあります。図書館では、「文正草子」、「花鳥風月」、「酒吞童子」、「弥兵衛鼠」など絵巻を含めた奈良絵本50点あまりを所蔵しています。



「弥兵衛鼠」江戸前期写 絵巻



「酒吞童子」江戸前期写 絵巻

反町文書 港区指定文化財

慶應義塾卒業生で実業家である反町十郎氏(1903-1982)が蒐集した中近世の古文書約160点です。慶應義塾創立100年を記念して、昭和31(1956)年に寄贈されました。文書の年代は鎌倉時代から江戸中期に至り、中世・近世はほぼ半数ずつです。中核をなす武家文書には足利尊氏をはじめとする室町幕府の将軍や管領発給の文書、高名な戦国武将の朱印状や書状などが多数含まれています。公家や寺社文書にも興味深いものが多く、多様な文書を有する貴重な文書群です。



長久手合戦陣備書
豊田秀吉自署
天正12(1584)年

魚菜文庫

料理関係の古文書・古記録など約1600点です。代々、宮中の御厨子所預だった高橋家が明治になり職を田幕府料理方頭取(町方)の石井治兵衛に譲った際に移管された古文書、古典籍と石井家所蔵資料で構成されています。9代目の石井泰次郎氏がコレクションを整理、充実したことにより「石泰文庫」と呼ばれていました。昭和54(1979)年に料理研究家田村魚菜氏より寄贈されました。



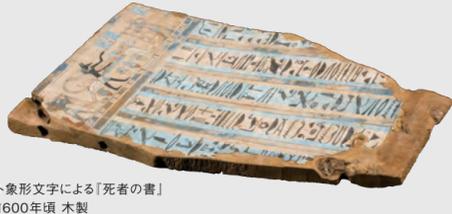
中原忠兼料理式伝書 江戸前期写

その他の資料

この他、貴重書室では時祷書、科学史の洋書コレクション、天文版『論語』、朝鮮版『史記』、古活字版や五山版等の和刻本漢籍、特殊な形態の資料としてはシュメールの円錐形定礎碑文(BC.2140)、エジプト象形文字による「死者の書」(BC.600、木製)、甲骨文字(殷時代末期)、法隆寺「百万塔陀羅尼」(770年)などを所蔵しています。



甲骨文字
殷時代末期



エジプト象形文字による「死者の書」
紀元前600年頃 木製

高橋誠一郎浮世絵コレクション

慶應義塾の経済学者であり文部大臣などの要職を歴任した高橋誠一郎氏(1884-1982)が収集した約1500点の浮世絵コレクションです。国内有数の浮世絵収集家として有名だった高橋氏のコレクションは保存状態も良好で、浮世絵の開祖・菱川師宣をはじめ、鈴木春信・喜多川歌麿・東洲斎写楽・葛飾北斎・歌川広重らの作品から明治の小林清親・月岡芳年までを網羅しています。コレクション単体で初期から幕末明治にいたる浮世絵の歴史を閲覧できるように体系的に収集されています。



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」

鈴木春信
「風流四季哥仙 二月 水辺梅」

泉鏡花自筆原稿・遺品

水上瀧太郎らの仲介で、昭和16~17(1941-42)年に泉すず子氏(鏡花夫人)より寄贈された小説家泉鏡花の自筆原稿約180点、遺品約160点、旧蔵書の草双紙48点のコレクションです。自筆原稿はすべて泉家で製本され、図書館で鋪木清方の題箋が付されました。熱心なうさぎコレクターだった鏡花の遺品には幼少時に母から贈られた水晶の兔のほか膨大な数のうさぎ関連グッズがあります。



泉鏡花自筆原稿「天守物語」



泉鏡花遺品

福澤関係文書

慶應義塾創立者である福澤諭吉(1835-1901)の自筆原稿、墨蹟、書簡、遺品、旧蔵書など関連資料約600点です。約70点の自筆原稿、100点あまりの書簡などのほかに「諭吉」命名の由来となった父福澤百助旧蔵の『上諭条例』や散歩時に使用した杖床、福澤が最も影響を受けたとされる洋書で自筆書入れのあるミル「功利主義」などが含まれています。主要な資料は「福澤関係文書マイクロフィルム」に収録されています。



福澤諭吉書幅「自立自尊」



パピルス 紀元前3世紀半ば



法隆寺「百万塔陀羅尼」
神護景雲4(770)年刊



「史記」朝鮮前期刊 銅活字